

### ◆年次大会に対する

#### 地方会員よりの要望◆

今年度大会を愛知県で合宿方式により開催するということに対して、五月二日の在京委員会で、会員の集りの点から考えて東京で開催の方がよいのではないかとの意向が出された。それについて川越淳二会員（愛知大学）から在京委員会宛手紙で申し出がありましたのでその要旨を掲載します。

(イ) われわれ地方在住者が東京で大会が開催される毎に不満を感じることは、会場がつねに時間的に制約され落着いた気持で議論ができず、形式的なものになりがちである。

(ロ) 午後五時以後は全く空白な時間であつて、短日時の上京が有効に利用できない。夜間も討議または懇談のためのプログラムを作成すること。

(ハ) 在京者のすべてでなくとも村研の発展を急ずる人たちは、宿泊するかまたはそれに準ずるだけの用意を上京者に対してもつべきである。

(ニ) 会員が多く集まることはもち論よいことであるが、それよりも時間的にも気分的にも内容の充実した大会であることに重点をおき地方からの熱心な参加者を失望させないこと。